

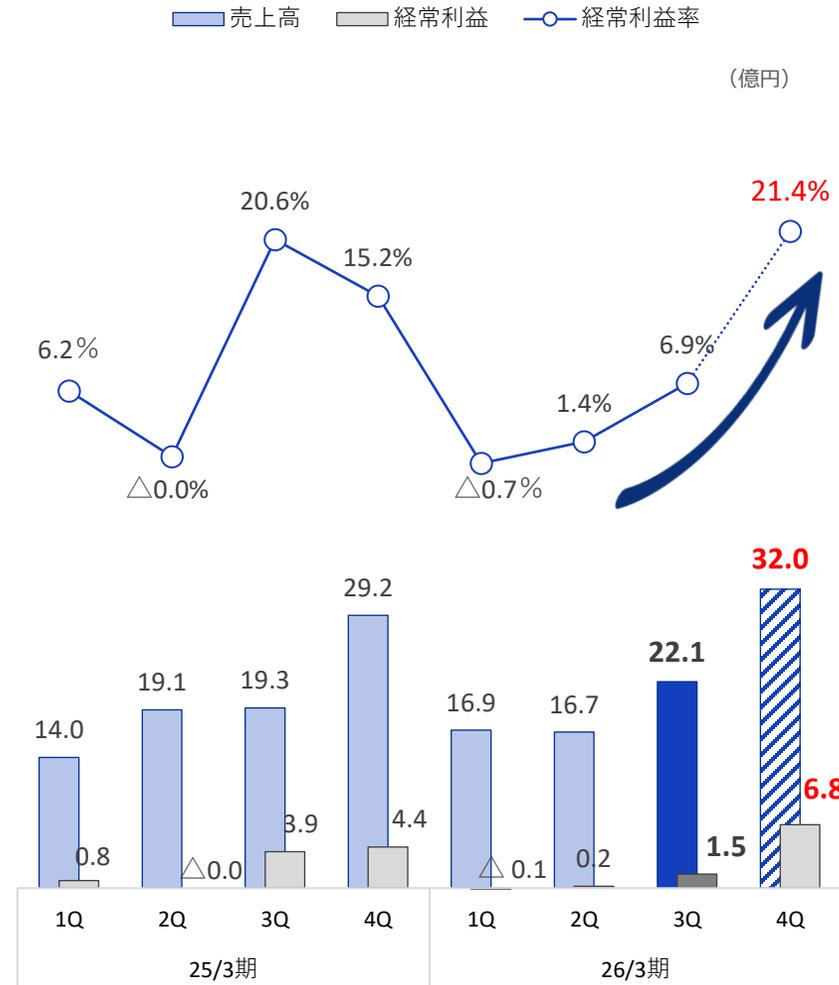
2026年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2026年2月13日



- 26/3期3Qは前年比増収減益。経常利益率も、1Qを底に改善の兆候
- 今期も4Q偏重型決算を想定するが、医薬・バイオの開発ステージ案件が想定以上に需要上振れ。通期見通しを上方修正
- 通期見通しは、従来想定より売上を2%、経常利益は6%引上げ。営業利益は対前年で横ばい水準を想定していたものの、10%の増益確保へと見通しを修正する

四半期推移



26/3期通期業績見通しの修正

	従来見通し	修正見通し
売上高	86億円	88億円 +2億円
経常利益	8億円	8.5億円 +0.5億円

✓ 医薬 : +0.8億円
 ✓ バイオ : +1.2億円

1. 2026年3月期3Q 決算概要

- 26/3期3Q累計売上は医薬、バイオが伸長し、前年比で増収を確保
- 機能材料分野では原材料遅延で短期的な売上抑制が発生も、すでに解消済み
- 医薬・バイオ分野では開発ステージ案件が好調に推移し、前年を上回るペースで伸長
- 一方、利益面は一時的な製品構成悪化や2Qまでの設備不調等の影響で苦戦

(百万円)	2024/3期		2025/3期		2026/3期		
	3Q累計	通期	3Q累計	通期	3Q累計	前年差異	変化率
売上高	5,184	9,154	5,254	8,178	5,593	+338	6.5%
機能材料	1,910	2,714	2,233	3,002	2,077	△156	△7.0%
医薬	2,133	4,609	2,026	3,508	2,309	+283	14.0%
バイオ	1,141	1,829	994	1,667	1,206	+212	21.4%
営業利益	850	2,081	322	771	154	△168	△52.3%
経常利益	864	2,094	484	929	165	△319	△65.9%
経常利益率	16.7%	22.9%	9.2%	11.4%	3.0%	△6.3%	—
当期純利益	595	1,493	338	737	105	△233	△68.8%
調整後EBITDA*	1,420	2,867	1,095	1,761	753	△341	△31.2%
調整後BITDAマージン	27.4%	31.3%	20.9%	21.5%	13.5%	△7.4%	—

* 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し

四半期別経営成績

- 26/3期3Q発生ベースでも、前年比で増収減益。バイオは開発ステージが好調ながら、製品構成悪化が足枷に
- 3Q単独の調整後EBITDAマージンは16.8%。まだ水準的には十分ではないものの、四半期の推移では改善傾向に転換

(百万円)	2024/3期				2025/3期				2026/3期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	1,779	1,593	1,812	3,969	1,405	1,916	1,932	2,924	1,694	1,679	2,219
機能材料	610	576	723	804	798	769	665	768	755	654	666
医薬	923	673	535	2,476	395	703	927	1,482	730	686	893
バイオ	244	343	553	688	211	442	339	673	208	338	659
営業利益	404	223	222	1,230	85	△8	246	448	△9	8	154
経常利益	408	227	228	1,230	87	△0	398	445	△11	22	153
経常利益率	22.9%	14.3%	12.6%	31.0%	6.2%	△0.0%	20.6%	15.2%	△0.7%	1.4%	6.9%
当期純利益	286	154	154	897	56	△1	283	398	△11	12	104
調整後EBITDA*	590	419	410	1,447	283	200	611	665	182	197	373
調整後EBITDAマージン	33.2%	26.4%	22.6%	36.5%	20.1%	10.5%	31.7%	22.8%	10.8%	11.8%	16.8%

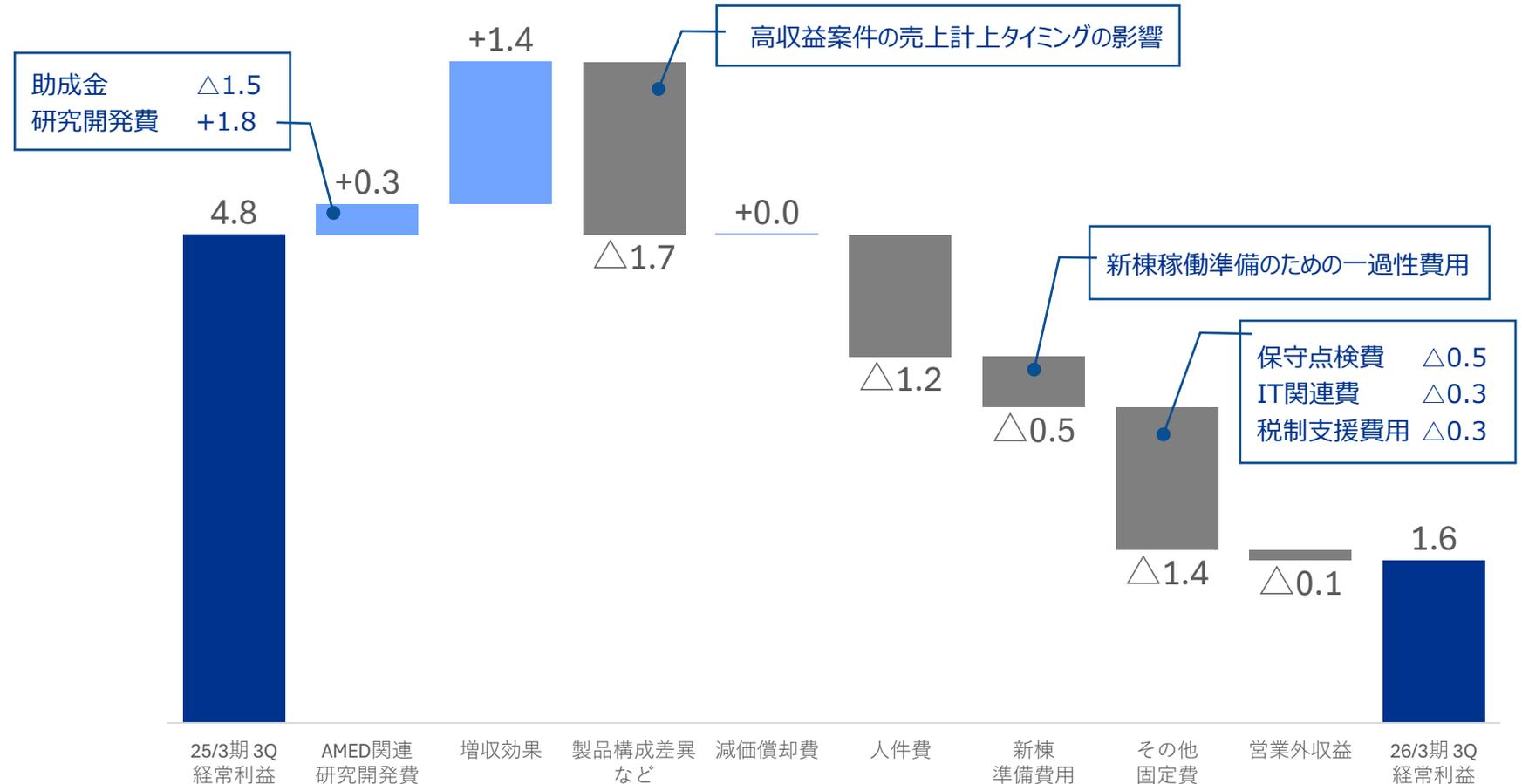
* 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し

- 1.4億円の増収効果があったものの、売上計上タイミングなど製品構成差異など一時的に悪化。人件費を中心とする固定費増加は吸収できず。3Q累計経常利益は3.2億円の減少
- コスト圧迫要因では、機材新棟（FP-4）の稼働開始に伴う一過性費用も発生。一時的な製品構成悪化といった「特殊要因を除いた実カベース」では決算数字ほどの減益ではなかったと分析
- AMED関連については、前期に計上した助成金収入が消失。ただし、同時に研究開発負担も通常ペースに回帰し、全社損益への影響は限定的に

※AMED：国立研究開発法人日本医療研究開発機構の略称

2026/3期 3Q経常利益 増減益要因分析

(億円)



機能材料分野

【受注状況】

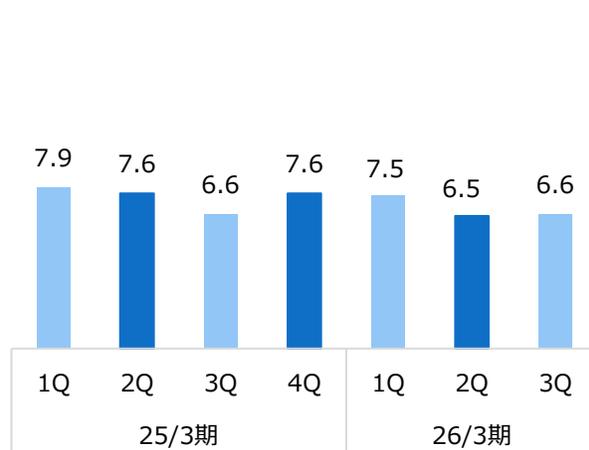
引合い好調維持

【3Q売上実績】

上期に来期販売の大型案件着手の影響が残るも、引合い好調を背景に堅調に推移

【四半期別売上推移】

(億円)



医薬分野

【受注状況】

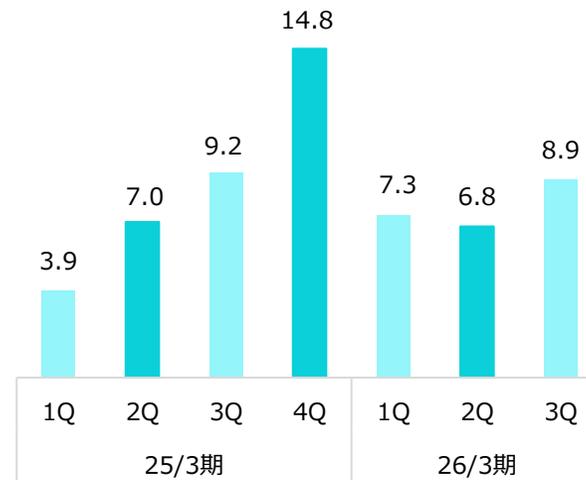
見込生産品や来期以降に販売予定の大型案件が堅調

【3Q売上実績】

2Qまでの設備不調の影響もあり3Qは製品構成差異が悪化。一方、大型案件の計上を4Qに備え、生産は堅調に進捗

【四半期別売上推移】

(億円)



バイオ分野

【受注状況】

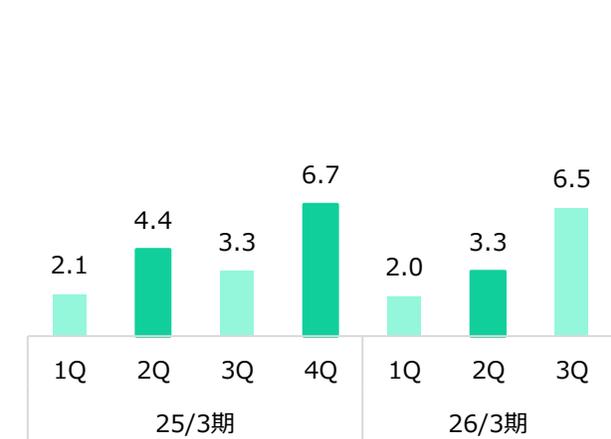
引続き、新規の引合い好調

【3Q売上実績】

大型開発案件を売上計上し、例年四半期単独で売上げピークとなる4Qと同水準

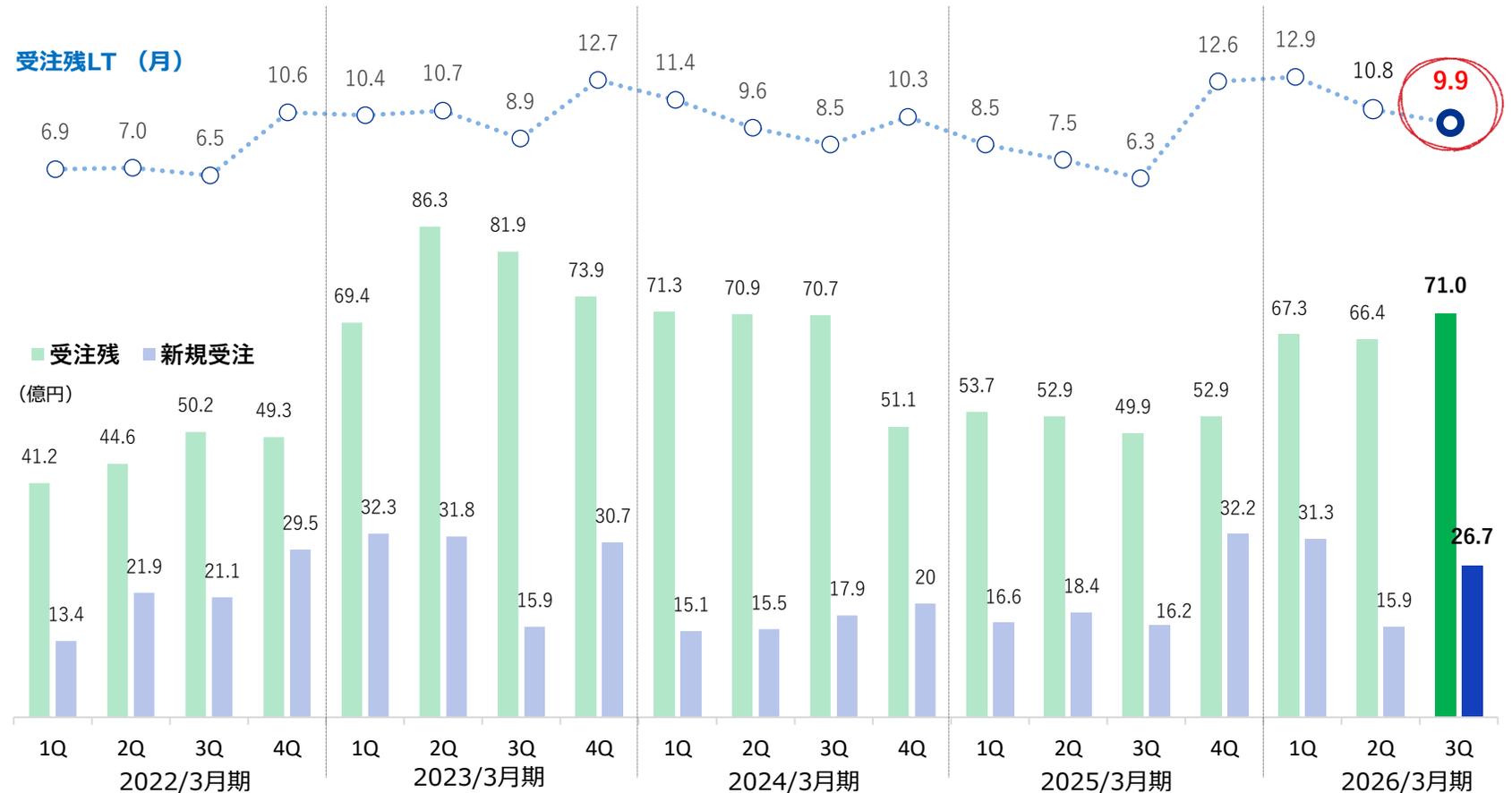
【四半期別売上推移】

(億円)



- 26/3期3Qの新規受注は好調な引合いを背景に2Q比で増加。4Qの出荷集中を控え、受注残が積みあがる一方、受注残存リードタイムはさらに短縮
- なお、FP-4棟新設に伴う受注へのプラス効果は4Q以降に発現を想定。3Qの新規受注にはこの影響はまだ反映されず

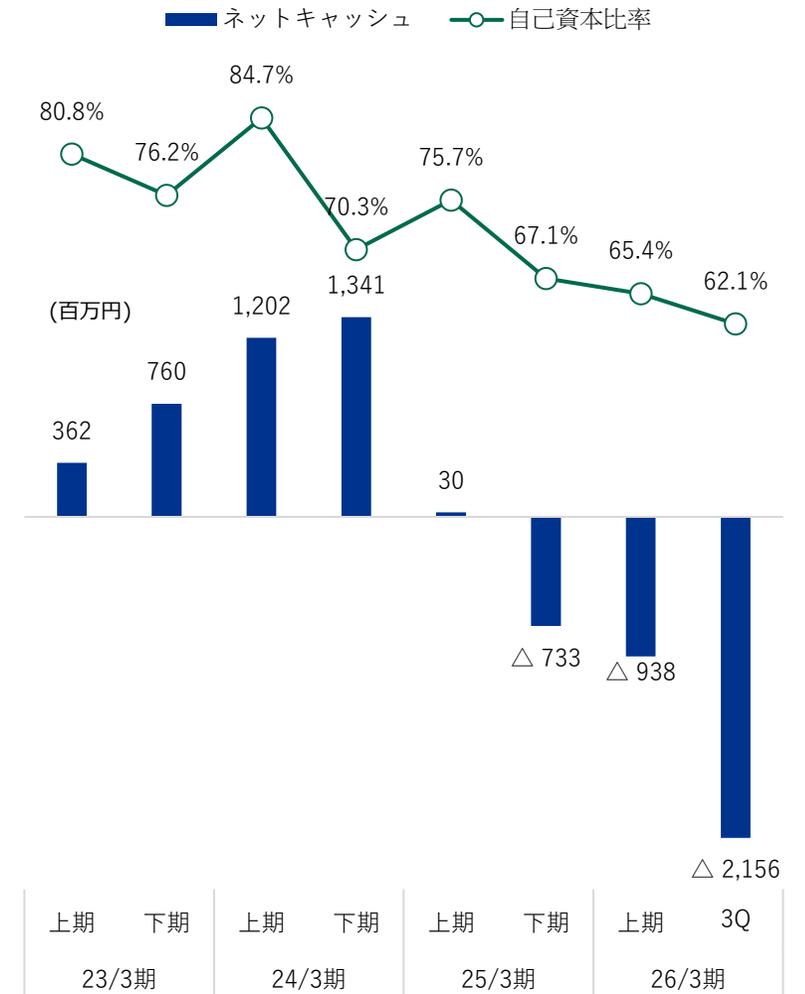
新規受注、受注残及び受注残存リードタイムの推移



※1 顧客から提示されたフォーキャスト等は含まず
 ※2 受注残LTはその時点で今後の納期に至る平均残存期間で算出

- 総資産は前期末比で若干の増加。大規模設備投資に伴い、有形固定資産が増加。
- FP-4完成に伴い、建設仮勘定はほぼ解消
- 流動資産では、売上債権の回収が進む一方、4Qの出荷集中対応として在庫を更に積増し
- 自己資本比率は62.1%。依然として高水準ながらも、財務レバレッジは着実に上昇

(百万円)	2024/3期	2025/3期	2026/3期 3Q	前期末比
流動資産	8,558	7,475	7,494	+18
現預金	3,311	2,385	1,717	△667
売上債権	2,626	2,407	1,360	△1,046
棚卸資産	2,518	2,541	3,648	+1,106
固定資産	10,063	12,676	14,074	+1,397
有形固定資産	8,474	11,147	12,541	+1,394
(うち、建設仮勘定)	1,345	3,646	65	△3,580
繰延税金資産	1,151	1,191	1,137	△53
総資産	18,621	20,152	21,568	+1,415
負債	5,534	6,632	8,173	+1,541
有利子負債	1,970	3,119	3,873	+754
未払金/未払税	1,699	753	527	△225
長期前受収益	923	1,767	2,098	+331
純資産	13,086	13,520	13,394	△125
負債純資産合計	18,621	20,152	21,568	+1,415



2. 2026年3月期 決算見通し

2026/3期 通期経常利益見直し

従来見直し

8.0億円



修正見直し

8.5億円

+0.5億円



増収効果

+1.2億円

- 引合い好調な医薬、バイオの売上想定引上げによる影響

固定費上昇

△0.7億円

- 研究開発費の上昇
- 保守点検費の上昇
- 従業員数の見直しによる人件費減少

- 通期見通しは従来想定から売上2%、経常利益6%上方修正。医薬・バイオの開発ステージ好調がその主因。対前期比では、10%の営業増益を見込む
- 4Q偏重構造はその緩和が課題ながら、2026/3期においてはまだ目立った緩和対策の効果には至らず

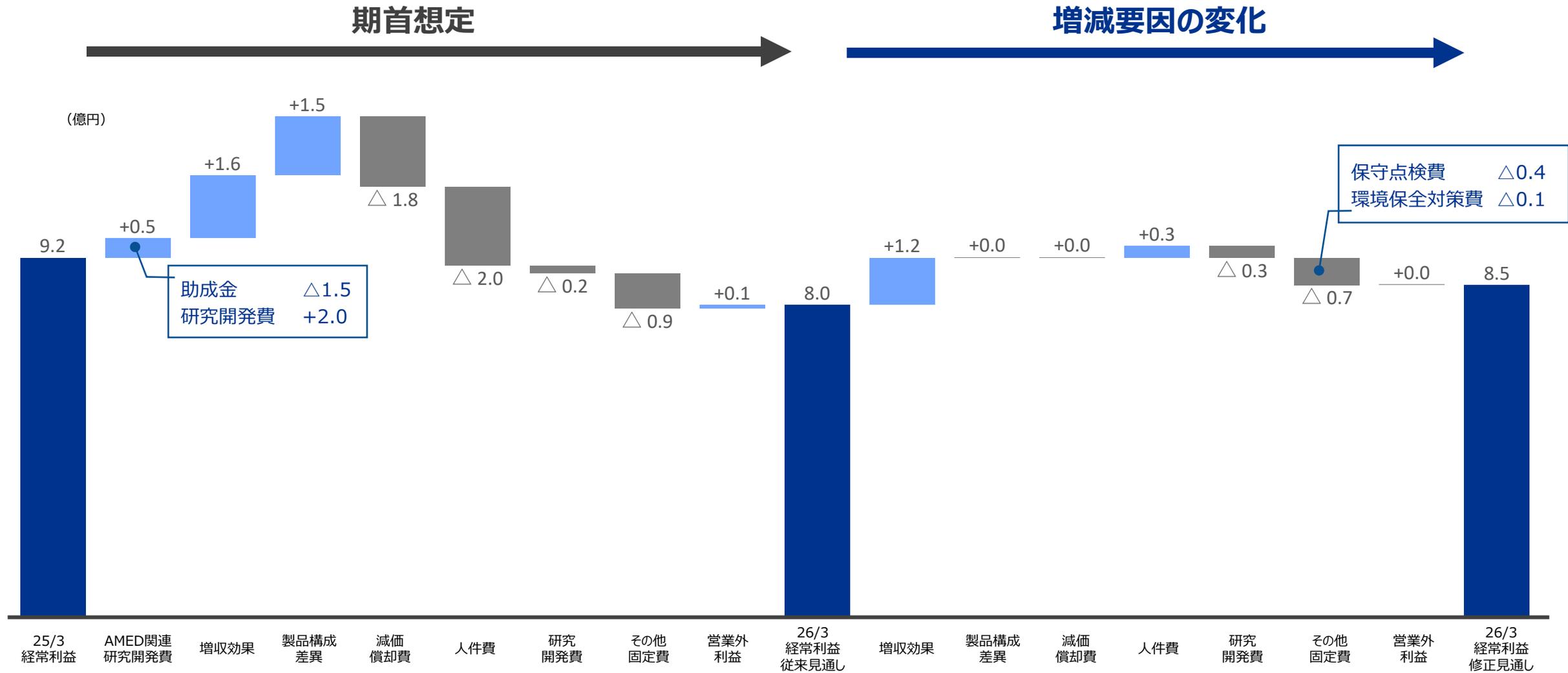
(百万円)	2024/3期	2025/3期	2026/3期見通し			修正後前年比較		3Q時点 修正見通し 通期進捗率
			従来 (2025/5/13)	修正 (2026/2/13)	修正増減	差異	変化率	
売上高	9,154	8,178	8,600	8,800	+200	+621	+7.6%	63.6%
機能材料	2,714	3,002	2,950	2,950	0	△52	△1.8%	70.4%
医薬	4,609	3,508	3,700	3,780	+80	+271	+7.7%	61.1%
バイオ	1,829	1,667	1,950	2,070	+120	+402	+24.2%	58.3%
営業利益	2,081	771	780	850	+70	+78	+10.1%	18.1%
経常利益	2,094	929	800	850	+50	△79	△8.6%	19.4%
経常利益率	22.9%	11.4%	9.3%	9.7%	+0.4pp	△1.7pp	—	—
当期純利益	1,493	737	584	600	+16	△137	△18.6%	17.6%
調整後EBITDA*	2,867	1,761	1,777	1,868	+90	+106	+6.1%	40.3%
調整後EBITDAマージン	31.3%	21.5%	20.7%	21.2%	+0.5pp	△0.3pp	—	—

* 調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金で算出

四半期別経営成績

- 4Q発生ベースでは、前年比2.5億円の営業増益。利益水準は歴史的な4Q偏重となった2024/3期に匹敵するレベル。期前半の設備不良影響の反動などが利益水準を押し上げる見通し。注目の調整後EBITDAマージンは34%まで上昇を想定

(百万円)	2024/3期				2025/3期				2026/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,779	1,593	1,812	3,969	1,405	1,916	1,932	2,924	1,694	1,679	2,219	3,206
機能材料	610	576	723	804	798	769	665	768	755	654	666	872
医薬	923	673	535	2,476	395	703	927	1,482	730	686	893	1,470
バイオ	244	343	553	688	211	442	339	673	208	338	659	863
営業利益	404	223	222	1,230	85	△8	246	448	△9	8	154	695
経常利益	408	227	228	1,230	87	△0	398	445	△11	22	153	684
経常利益率	22.9%	14.3%	12.6%	31.0%	6.2%	△0.0%	20.6%	15.2%	△0.7%	1.4%	6.9%	21.4%
当期純利益	286	154	154	897	56	△1	283	398	△11	12	104	494
調整後EBITDA	590	419	410	1,447	283	200	611	665	182	197	373	1,114
調整後EBITDAマージン	33.2%	26.4%	22.6%	36.5%	20.1%	10.5%	31.7%	22.8%	10.8%	11.8%	16.8%	34.8%



分野別売上推移

● 機能材料

4Q以降は原材料遅延解消による需要回復で売上伸長、計画達成の見込み。FP-4の収益貢献は来期以降の発生を想定

● 医薬

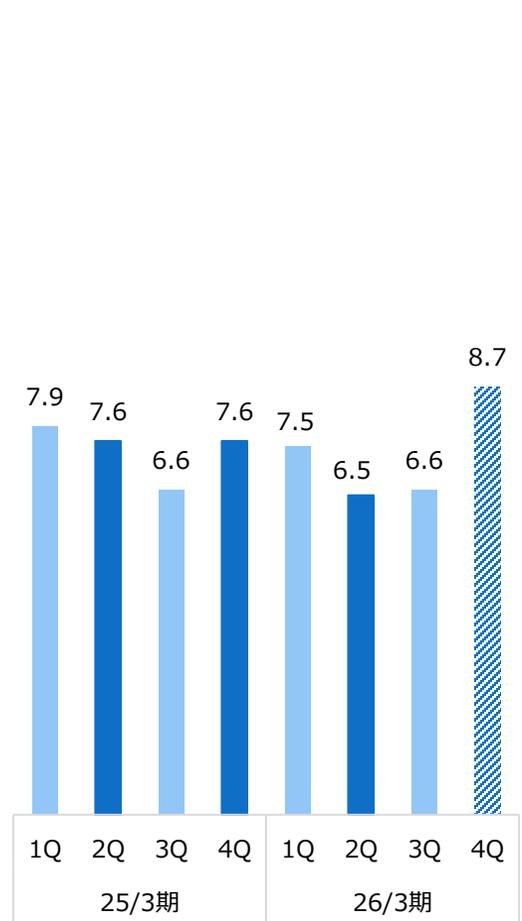
大型案件の販売に加え、開発ステージが好調に推移。4Qの出荷集中は想定以上となり、売上見通しを引上げ

● バイオ

4QはD棟の本格稼働に加え、医薬同様に開発ステージ案件の好調を想定。四半期別売上は過去最高を更新し、通期累計でも売上見通しを増額修正

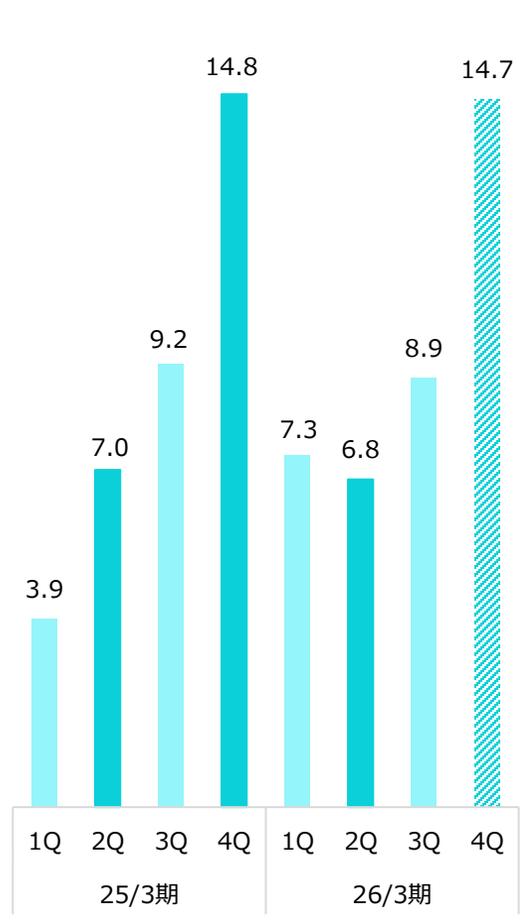
機能材料分野

(億円)



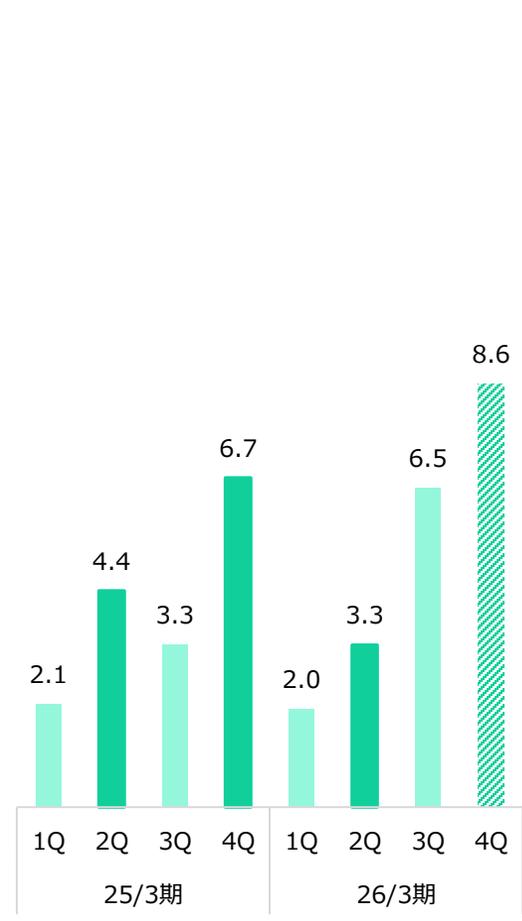
医薬分野

(億円)



バイオ分野

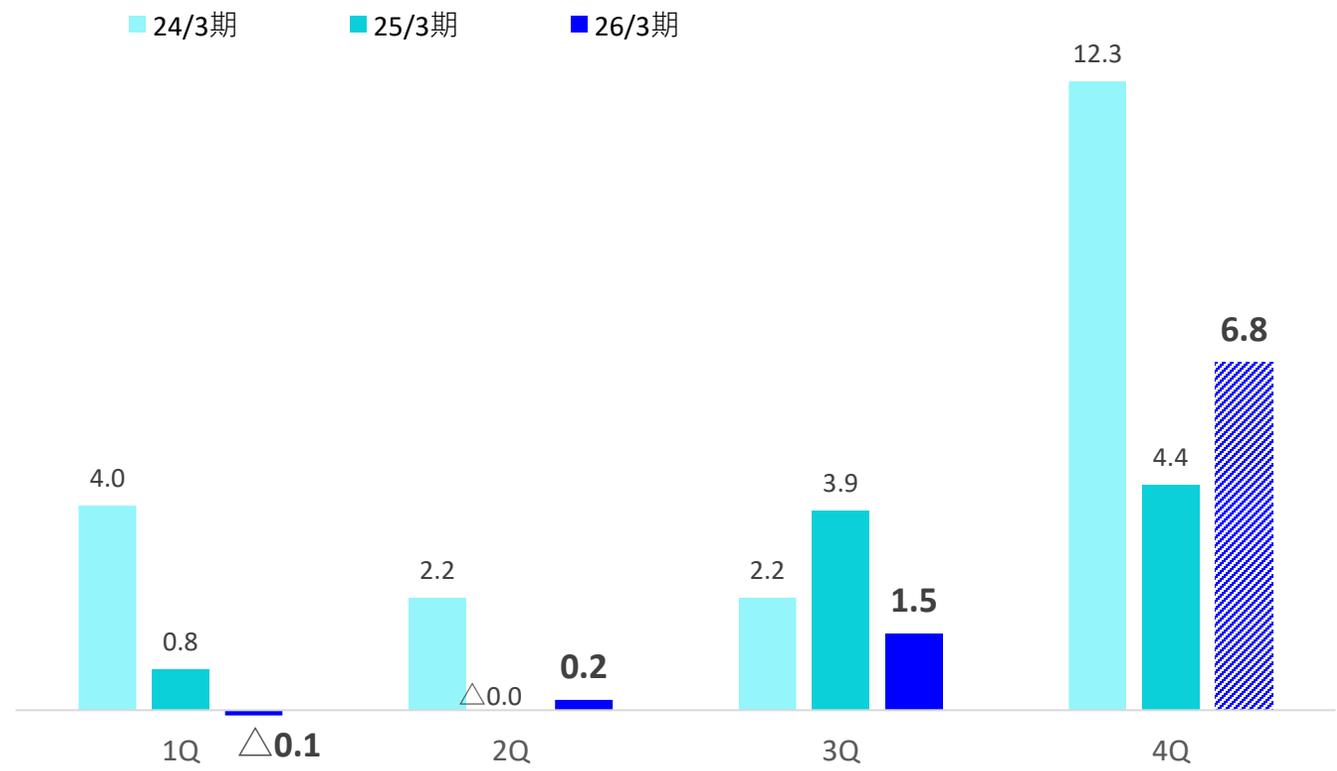
(億円)



- 四半期別の経常利益は、期を追って拡大する見込み。特に医薬の大型案件やバイオの開発ステージ案件により、4Qに大きく積上げ
- D棟にかかる減価償却費の負担は、前受収益の取崩しによって相殺され実質的はなし。一方、もう一つの大型投資であるFP-4の減価償却費は4Qより計上開始を予定。こちらは利益圧迫要因として影響する見通し
- ただし、4Qでは減価償却費増加の影響も出荷集中に伴う増収効果で吸収。大幅な利益の積み増しを見込む

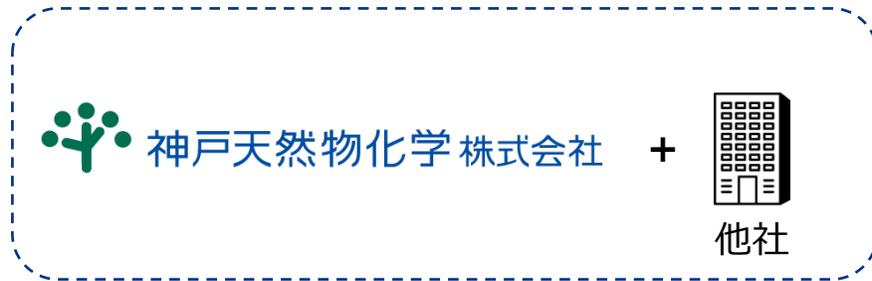
四半期別経常利益想定

(億円)



3. トピックス

- 2025年12月、がん治療/感染症予防ワクチン開発のイムノロック社（非上場）に出資
- 出資額は他社と合わせて5,010万円
- イムノロック社の経口がん治療ワクチン（B440）の開発コンセプトおよび開発状況を高く評価。当社中計での経営課題4における目指す姿（アカデミア・創薬ベンチャーとのパイプラインの拡充や社会実装）と高い親和性があると判断したため、出資を決定



経口がん治療ワクチンB440

イムノロック社開発ワクチンの一つ。腸管免疫を介して細胞傷害性T細胞を誘導する世界初の経口がん免疫療法剤であり、大きなポテンシャルを有する



出資の狙い

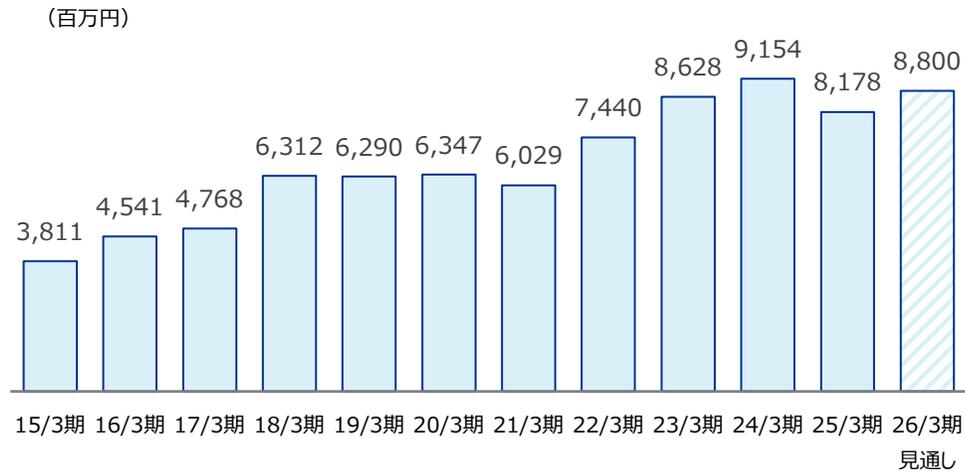
経口がん治療ワクチン（B440）および希少疾患を含む臨床開発の加速貢献を狙う

株式会社イムノロック 会社概要

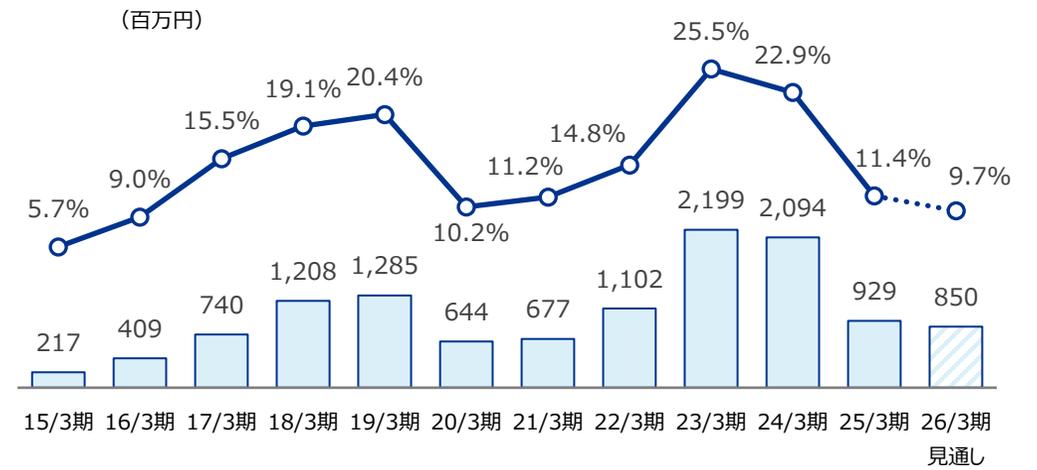
本社	兵庫県神戸市中央区楠木町 7-5-1
設立	2021年
代表取締役	白川利朗（神戸大学教授）
事業内容	ビフィズス菌の特性を利用した新規経口ワクチンプラットフォーム技術を有し、神戸大学発の創薬スタートアップとして設立。現在、経口のがん治療ワクチン（B440）などの開発に取り組む
URL	https://immunorock.com/

4. Appendix

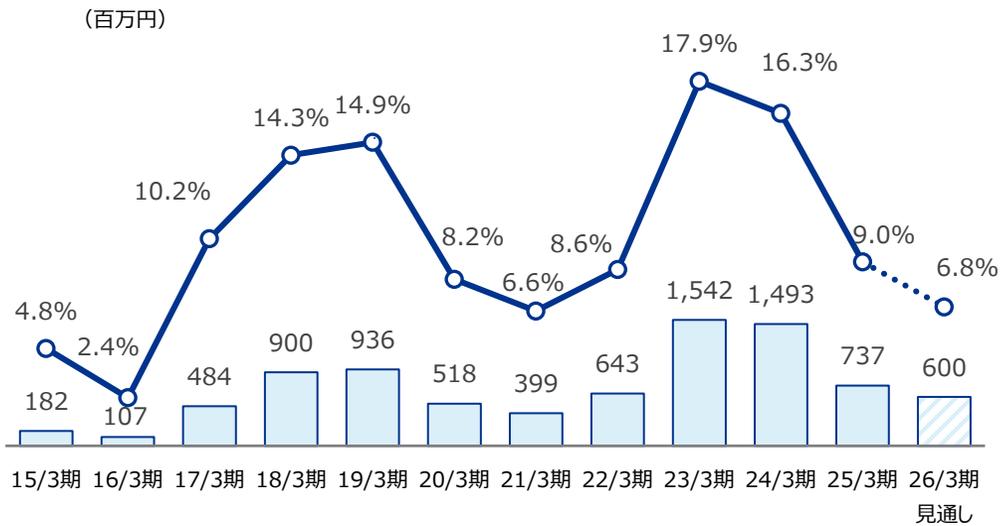
売上高



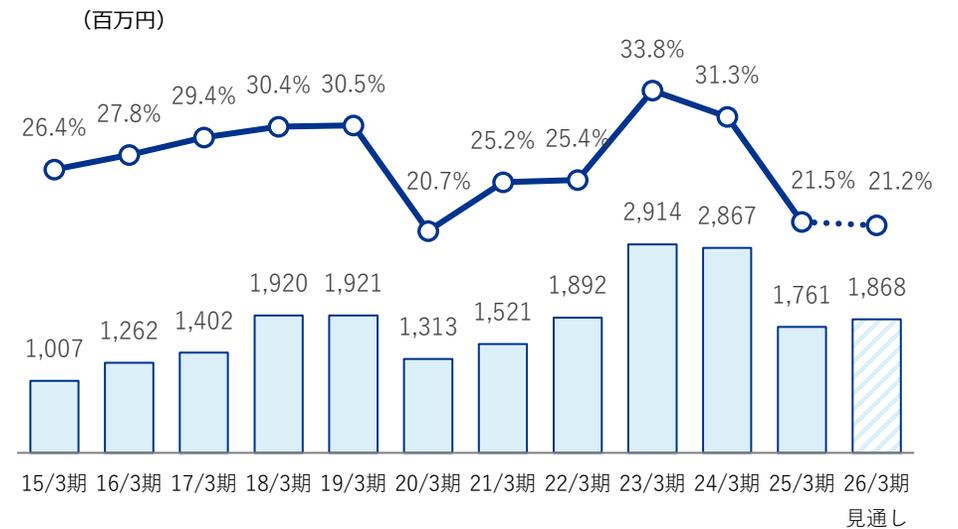
経常利益・経常利益率



当期純利益・当期純利益率



調整後EBITDA・調整後EBITDAマージン



*調整後EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 研究助成金 - 長期前受収益取崩し分

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900 (代表) knc-ir@kncweb.co.jp